

平成27年度  
調布市生活支援体制整備事業  
事業報告書

平成28年4月

調布市福祉健康部高齢者支援室  
公益財団法人調布ゆうあい福祉公社

## 目次

1 調布市生活支援体制整備事業の開始について .....	1
2 活動報告【生活支援コーディネーター】	
(1) 生活支援コーディネーター活動実績 .....	4
(2) 支え合える地域づくり学習会の開催 .....	6
(3) 地域課題及び資源の把握・分析 .....	7
3 活動報告【協議体】 .....	13
4 平成27年度生活支援体制整備事業を通して .....	16
5 平成28年度生活支援体制整備事業の方向性 .....	17

## 1 調布市生活支援体制整備事業の開始について

### (1) 「調布市生活支援体制整備事業」とは

平成27年度の介護保険制度改正によって、介護予防給付の一部である介護予防訪問介護及び通所介護は、市が地域の実情に応じた取組を行うことができる「介護予防・日常生活支援総合事業」へと移行されることとなり、ボランティアなど地域の多様な主体を活用しながら、高齢者を支援していくこととなりました。

調布市では、地域住民が主体となった生活支援・介護予防サービスの充実が図れるよう、「調布市生活支援体制整備事業」を開始し、地域の互助を高め、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを進めました。

### (2) 「生活支援コーディネーター」と「協議体」について

高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域における、生活支援等の体制整備に向けた調整役として、「生活支援コーディネーター」を配置しました。

また、地域で高齢者を支援する関係者間のネットワークづくりを目的とし、定期的な情報共有・連携強化の場として「協議体」を設置しました。

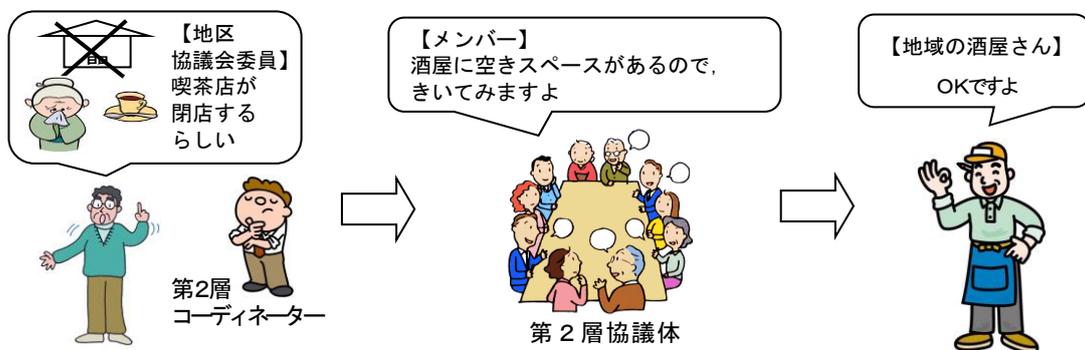
「調布市生活支援体制整備事業」では、「生活支援コーディネーター」が「協議体」のネットワークを活かし、住民主体のサービスが活発化されるよう、地域全体で高齢者を支える体制づくりを地域の方とともに進めました。

(3) 調布市における生活支援コーディネーターと協議体の具体的なイメージ  
 ※ 内容は一例のイメージであり、コーディネーター等の動きに注目すること

■第2層イメージ例

▶ 第1層の機能の下、各地域（例：日常生活圏域）で関係者とのネットワーク化やサービス開発を行う

- ☐ 地区協議会に出席した第2層コーディネーターは、高齢者のたまり場となっていた喫茶店が閉店することを委員の雑談の中で聞く
- ☐ 協議体開催。メンバーである商工会の委員から、空きスペースがある酒屋があるので、そこで高齢者がたまってお茶を飲んだりしても良いか提案をするという意見をもらう
- ☐ 商工会委員とコーディネーターで酒屋を訪問すると、良い返事をもらうことができた



■第1層イメージ例

▶ 市全域で、関係者とのネットワーク化やサービス開発を行う

- ☐ 第2層の各コーディネーターは、高齢者が気軽に集まれる場所の確保に苦慮しており、第1層協議体にて、困っていることとして報告
- また、第1層コーディネーターは、市の会議を傍聴した際に、空き家をどうにもできず困っている市民がいるという情報を入手
- ☐ 次の第1層協議体に空き家対策関係部署の職員を招集。空き家を高齢者のために活用する仕組みづくりを検討してもらえないか打診
- ☐ 市にて、空き家を地域活動のために活用する仕組み（例：マッチング機能、空き家提供謝礼制度など）を構築してもらえた



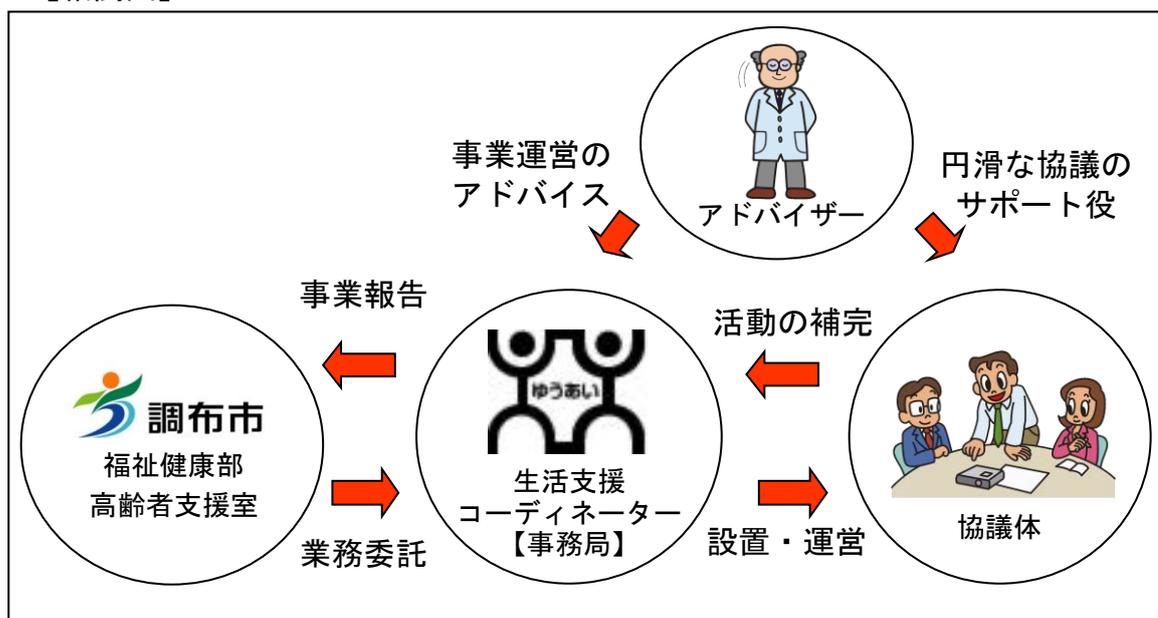
(4) 調布市での運営体制

調布市では、平成27年度に第1層生活支援コーディネーターの配置及び第1層協議体の設置を行い、関係者（地域包括支援センターや地域福祉コーディネーターなど）と顔の見える関係づくりや、サービス開発を行うための既存資源の把握調査等を市全域で進めました。

【調布市での運営体制】

調布市生活支援体制整備事業の開始時期		平成27年4月 ※ 平成27年6月から 公益財団法人調布ゆうあい福祉公社へ委託
生活支援 コーディネーター	活動区域	第1層（市全域）
	配置人数	社会福祉士2人配置（公社業務兼任）
協議体	対象区域	第1層（市全域）
	メンバー	調布市内の関係団体12人を招集
アドバイザー		室田 信一 （首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 准教授）
事務局		公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 地域事業課住民参加推進係
市の所管部署		福祉健康部高齢者支援室

【関連図】



## 2 活動報告【生活支援コーディネーター】

### (1) 生活支援コーディネーター活動実績

#### ア 内容と件数 活動合計60件

<b>資源開発 27件</b>
<b>既存資源の把握, 地域に不足する資源の創出 15件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■資源・地域課題ヒアリング調査票作成 (地域包括支援センター10箇所, 地域福祉コーディネーター4地域)</li> <li>■民間事業者への家事代行サービスのヒアリング</li> <li>■コミュニティビジネスを活用してつどい場の創出, ネットワークづくりなどに 取組む調布アットホームカフェへの参加 (介護者の立場から自宅開放居場所作りについて)</li> <li>■体操サロンの見学</li> <li>■第10回地域デビュー歓迎会「お役立ち探し」会の視察</li> <li>■武蔵野市テンミリオンハウス(高齢者のつどい場)の見学</li> <li>■ケアマネジャーへのヒアリング など</li> </ul>
<b>サービスの担い手の養成 1件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■富士見地域福祉センター・ボランティアガイダンスの見学</li> </ul>
<b>元気な高齢者等が担い手として活動する場の把握 11件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■自宅を開放してつどい場の開催を希望する市民と, 市内の先駆的なつどい場に 同行訪問</li> <li>■ゆうあい・せいじゅ合同ボランティア説明会への参加</li> <li>■調布市シルバー人材センター視察</li> <li>■市内のつどい場などの見学</li> <li>■調布市民未来会議への参加</li> <li>■子どものつどい場へのボランティア紹介</li> <li>■ゆうあい協力会員の定年制について など</li> </ul>
<b>ネットワーク機能の構築 24件</b>
<b>関係者間の情報共有 24件</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■調布市福祉人材育成センター挨拶</li> <li>■支援センター連絡会への挨拶</li> <li>■各地域包括支援センターが主催する地域ケア会議の出席</li> <li>■地域福祉コーディネーター(4名)との情報交換会</li> <li>■ちょうふの里地域包括支援センターと地域福祉コーディネーター情報交換会</li> <li>■立川市社会福祉協議会視察</li> <li>■武蔵野市主催の近隣市生活支援コーディネーター情報交換会</li> </ul>

- 東京都生活支援体制整備事業情報交換会
- 狛江こまYELLとの連絡調整（高齢者等の活躍の場の意見交換）
- 地域ケア会議参加
- 地域デビュー歓迎会参加
- 北西部ケアマネットへの参加
- 介護保険サービス事業者調布連絡協議会研修会への参加
- 生涯学習講演会（市内コーディネーター情報交換会）
- ケアマネジャーへのヒアリング
- 訪問介護事業所との情報交換
- コミュニティカフェ情報交換会
- サービス事業所連絡協議会の研修参加 など

**その他の活動 9件**

**研修・会議その他 9件**

- 調布市高齢者福祉推進協議会への報告
- 地域福祉推進会議への報告
- 東京都生活支援コーディネーター養成研修
- 東京都地域コーディネーター力向上セミナー研修
- 「地域づくりにおける協議体・生活支援コーディネーターの役割  
～総合事業推進に向けて～」セミナー
- 全社協 地域包括支援センター・在宅介護支援センター研修会 など

**イ 活動の様子**



コミュニティカフェ情報交換会



コミュニティカフェ見学



夕友クラブ



ゆうあい・せいじゅ合同ボランティア説明会



夕友クラブ 手作りのお食事♪  
皆、お皿と箸を持参で集まります。

ウ 活動を通して（成果や課題）

初年度ということで、まずは地域に出て、生活支援コーディネーターを知ってもらうことに努めました。調布市はサロンやサークル活動等が盛んであるため、今後は範囲を絞って、活動した方が良いか等の課題が挙げられました。

また、地域包括支援センターと連携を図り、住民と地域とのつながりをコーディネートすることができました。今後は、引き続きセンターと連携を図るとともに、センター以外との連携を検討していきます。

(2) 支え合える地域づくり学習会の開催

ア 内容と参加人数

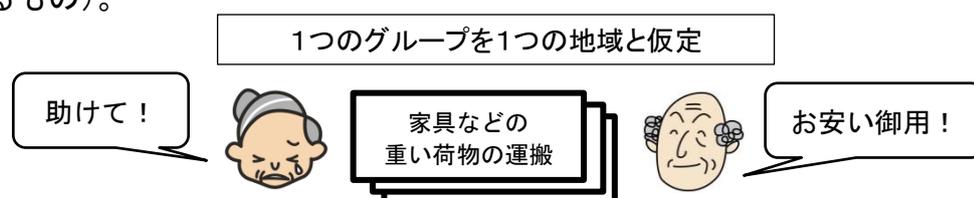
支え合える地域づくり学習会	
日時	平成28年2月24日（水） 第1部 9:30～11:00 第2部 13:00～16:00
場所	調布市市民プラザあくろす 第1部 研修室3 第2部 あくろすホール①
参加人数	第1部 13人 第2部 学習会 9人、認知症サポーター養成講座10人
内容	■第1部 ・地域に必要な支援ってなんだろう？ 【内容】高齢者を取り巻く現状、近隣助け合い体験、座談会 ■第2部 ・地域に必要な支援ってなんだろう？ 【内容】高齢者を取り巻く現状、近隣助け合い体験、座談会 ・認知症サポーター養成講座

イ 学習会の様子



## ウ 学習会の開催を通して（成果や課題）

学習会では、高齢社会の現状の講義のあと、さわやか福祉財団作成の「近隣助け合い体験ゲーム」のカードを使い、助け合いの模擬体験をしました（自分がしてほしいことが書かれたカードを手に取り、助けてくれる人を募るもの）。



交渉が成立し、模擬とはいえ、自分の手助けをしてくれる人が見つかる  
と、皆さんから笑顔がこぼれ、支え合いの実践に向けて様々な気づきにつ  
なげることができました。今後は、「支え合い」の普及啓発に向けて、よ  
り有効な学習会になるようブラッシュアップしていくとともに、フォロー  
アップについても検討していきます。

## (3) 地域課題及び資源の把握・分析

### ア 地域課題について

地域包括支援センター10か所に生活支援コーディネーターが戸別訪  
問し、地域の課題についてヒアリングを行い、カテゴリ別に市内の課題と  
してリストアップしました。

#### 地域のつながり

- 個人情報の問題があり、支援の必要な高齢者の情報が不足している。特にマンションや自治会活動が盛んでない地域などは、高齢者の存在が把握しづらくなっている。
- 世帯に呼び寄せられた方は、地域とのかかわりが希薄になりがちである。
- 古くなった団地の建て替えで転居を余儀なくされ、今までのコミュニティーが喪失してしまうことがある。
- コミュニティーは子育てを通して始まることが多く、その後希薄になり、地域と

<p>のつながりができにくくなる。</p> <p>■既存の集まりがあっても、新しく参加しようとする閉鎖的な印象を受けてしまうことも少なくないようである。</p> <p>■自治会への未加入者が増えている。</p>
<p><b>場所の問題</b></p> <p>■段差があると集まることが厳しくなることもあり、要支援の方が気軽に集える場所が地域に不足している。</p> <p>■歩行可能範囲内に集まれるような場所があまりない。</p> <p>■集まれる場所を確保するために「空き家を借りたとしても管理や維持はどうするのか」という問題（火災保険等）も出るのでは」と心配する声があった。</p>
<p><b>人的資源の問題</b></p> <p>■地域のキーパーソンになる方は、地域でいくつも役割を掛け持ちして活躍されているが、80代の方が多く継承者がいないことが困っているとの声が聞かれる。地元の方の高齢化により地域をつくる力が弱くなっているため、専門職の介入が必要であるという声があった。</p>
<p><b>家族機能の問題</b></p> <p>■親族がいない方の入院手続きが大変になっている。身体的にお金を下ろすことが大変になり、友人がサポートしているがトラブルが起きていることもある。後見人を選任するほどではなかったりするとサポート資源がない。</p> <p>■本人がサービス利用を拒否していて、親族は遠方の場合、さらに支援が困難になることがある。</p>

## イ 地域資源について

地域包括支援センター10か所及び地域福祉コーディネーターに生活支援コーディネーターが調査票を依頼し、カテゴリ別に市内の資源課題としてリストアップしました。

※ リストアップしている数は、生活支援コーディネーターが調査を通して、把握したものです。実際の団体等の数とは異なります。

## 地域包括支援センター 仙川

担当地区：仙川町，緑ヶ丘，若葉町，入間町1丁目

### 地縁組織

自治会等 13団体  
地区協 3団体  
商店街

### ひだまりサロン・ボランティア・NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 14団体  
当事者活動等 9団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

市民活動支援センター  
地域福祉コーディネーター  
東部関係機関会議  
地域密着認知デイ  
通所介護 6箇所  
訪問介護 2箇所  
小規模多機能  
有料老人ホーム 2箇所  
居宅 2箇所  
訪問看護  
訪問リハ  
グループホーム  
在宅総合センターサロン

### 公共施設

地域福祉センター 2箇所  
ふれあいの家 2箇所  
公民館  
分館 2箇所  
小学校 2箇所  
中学校 2箇所  
保育園 2箇所  
児童館 2箇所  
学童クラブ  
市民テニスコート  
劇場  
記念館

### 生活関連産業

コンビニ（配食・配達）  
配食サービス事業所

地域の特性：見守りや買い物支援している老人クラブがある。  
東部関係機関会議で他施設との連携が図れている。  
公共施設が多い。ひだまりサロン・老人クラブが多い。  
自治会も活発に活動している。

## 地域包括支援センター つつじヶ丘

担当地区：東つつじヶ丘，西つつじヶ丘，  
入間町2・3丁目

### 地縁組織

自治会等  
地区協

### ひだまりサロン・ボランティア・NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 3団体  
当事者活動等 2団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

居宅  
小規模多機能型居宅介護  
通所介護 5箇所  
訪問介護 5箇所  
有料老人ホーム 2箇所  
住宅型有料老人ホーム  
訪問看護  
訪問入浴  
グループホーム

### 公共施設

地域福祉センター 1箇所  
分館 2箇所  
出張所  
小学校 2箇所  
保育園 2箇所  
児童館

### 生活関連産業

スーパー（配達） 2箇所  
ちょこっとサービス

地域の特性：生活のお困りごととサービスを行なっている自治会がある。  
農園サロンが2団体。高齢者サロンが1団体。  
公共施設が少ないため，集まる場所が不足している。

## 地域包括支援センター ちようふ花園

担当地区：下石原2・3丁目，小島町2・3丁目，  
布田3～6丁目

### 地縁組織

自治会等 2団体

### ひだまりサロン・ボランティア・NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 13団体  
当事者活動等 3団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

通所介護 5箇所  
訪問介護 6箇所  
訪問入浴  
デイケア 2箇所  
訪問看護 5箇所  
特養  
老健  
包括支援センター  
グループホーム 2箇所  
有料老人ホーム  
健康支援センター  
医療機関

### 公共施設

地域福祉センター  
ふれあいの家  
老人憩いの家  
総合福祉センター  
博物館  
小学校  
保健センター  
保育園  
学童クラブ  
医療ステーション  
グリーンホール  
たづくり  
市役所  
中央図書館

### 生活関連産業

シルバー人材センター  
スーパー（配達）  
スーパー（買い物支援員）

地域の特性：見守りに力を入れている自治会がある。  
公共施設が多い。  
ひだまりサロン・老人クラブが多い。  
介護保険事業所が非常に多い。

## 地域包括支援センター 至誠しばさき

担当地区：柴崎，菊野台1丁目，深大寺南町，  
深大寺東町2・3丁目，佐須町1・2・4・5丁目

### 地縁組織

自治会・管理組合 3箇所  
地区協 1箇所

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 2団体  
当事者活動等 12団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

通所介護 8箇所  
訪問介護 5箇所  
訪問リハ  
定期巡回・随時対応型訪問介護看護  
特養（ユニット型）  
グループホーム 2箇所  
住宅型有料老人ホーム  
サービス付高齢者住宅  
就労継続支援型事業所  
医療機関 6箇所

### 公共施設

地域福祉センター  
ふれあいの家 2箇所  
公民館  
分館  
小学校  
中学校  
児童館  
学童クラブ

### 生活関連産業

スーパー（配達） 2箇所  
弁当屋 2箇所  
クリーニング店  
蕎麦屋（店屋物配達）

地域の特性：商店があり，高齢者の見守りや配達に意識が向いている。  
地域の人の集まりが活発のため，地域福祉センターの利用が難しい。  
ふれあいの家が新しくできたため活用しやすい。

## 地域包括支援センター ゆうあい

担当地区：国領町1～6丁目，8丁目1・4番地，  
菊野台2・3丁目

### 地縁組織

自治会等 9団体  
地区協 4団体

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 9団体  
当事者活動等 11団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

特養  
通所介護 6箇所  
地域密着型認知通所介護  
有料老人ホーム  
サービス付高齢者住宅  
居宅 4箇所（市外含む）  
保育園  
子ども家庭支援センター  
知的障害者ケアホーム  
医療機関 26箇所  
福祉公社

### 公共施設

市民プラザあくろす  
ふれあいの家 5箇所  
分館  
小学校 2箇所  
中学校  
保育園  
学童クラブ 2箇所  
児童館  
市民スポーツ施設

### 生活関連産業

配食サービス事業所 4団体  
薬局（配達）  
無人野菜販売  
居カラ  
スポーツクラブ 2箇所  
ちょこっとさん  
個人商店（見守り） 3箇所  
店の休憩スペース（交流の場）

地域の特性：地域に密着した商店の見守りがある。  
ふれあいの家が多いが地域福祉センターがエリア内にはない。  
自治会で見守りを行っているところが増えた。  
電球の交換などを自治会で行っているところがある。  
住民参加型事業の協力会員が地域で活躍している。

## 地域包括支援センター せいじゅ

担当地区：飛田給2・3丁目，上石原2・3丁目，  
多摩川，築地1丁目

### 地縁組織

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 20団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

デイケア  
通所介護 3箇所  
訪問介護 2箇所  
老健  
特養

### 公共施設

地域福祉センター  
ふれあいの家 2箇所  
公民館  
分館  
小学校 2箇所  
中学校  
児童館 2箇所  
保育園 2箇所  
学童クラブ 4箇所

### 生活関連産業

移送サービス

地域の特性：ひだまりサロンが活発である。  
児童館が2箇所，学童クラブが4箇所あり，  
子ども分野の施設が多い。

## 地域包括支援センター はなみずき

担当地区：深大寺東町1・4～8丁目，深大寺北町，  
深大寺元町

### 地縁組織

自治会等 24団体

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 5団体  
当事者活動等 8団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

地域福祉コーディネーター  
小規模特養  
老健  
有料老人ホーム 2箇所  
通所介護 7箇所  
訪問介護 2箇所  
デイケア  
訪問看護  
グループホーム 2箇所  
医療機関 5箇所

### 公共施設

地域福祉センター  
老人憩いの家  
ふれあいの家  
分館  
小学校 2箇所  
保育園  
児童館  
学童クラブ 2箇所  
市民テニスコート  
総合体育館

### 生活関連産業

移送サービス

地域の特性：自治会組織が多い。老人クラブ等が多い。  
駅から遠く、交通が不便。  
医療・スーパーのアクセスが不便。

## 地域包括支援センター ちょうふの里

担当地区：上石原1丁目，下石原1丁目，富士見町，  
飛田給1丁目，西町，野水

### 地縁組織

自治会  
地区協

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 10団体  
当事者活動等

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

市民活動支援センター  
地域福祉コーディネーター  
通所介護 3箇所  
地域密着認知デイ  
訪問介護 5箇所  
有料老人ホーム 3箇所  
特養 2箇所（他市含む）  
訪問看護  
短期入所生活介護事業 2箇所  
居宅 3箇所  
障害者施設 6箇所  
子ども発達センター  
薬局  
ポールウォーキング

### 公共施設

地域福祉センター  
ふれあいの家 2箇所  
分館  
小学校  
中学校  
保育園  
学童クラブ  
児童館  
市民運動場  
市民野球場  
市民サッカー場  
青少年交流会館  
青少年ステーション

### 生活関連産業

ハウスクリーニング  
コンビニ（配達）  
自転車修理・包丁とぎ

地域の特性：ひだまりサロンが多い。  
有料老人ホームが地域開放を行なっている。  
公共施設が多い。  
福祉施設が多い。

## 地域包括支援センター 調布八雲苑

担当地区：小島1丁目，布田1・2丁目，八雲台，  
調布ヶ丘，佐須町3丁目

### 地縁組織

自治会等 2団体  
地区協

### ひだまりサロン・ボランティア・ NPO・当事者活動等

ひだまりサロン 6団体  
当事者活動等 5団体

### 医療・保健・福祉関連 機関・団体

通所介護 3箇所  
地域密着認知デイ  
健康体操  
包括  
特養  
障害者就労支援センター  
医療機関 2箇所

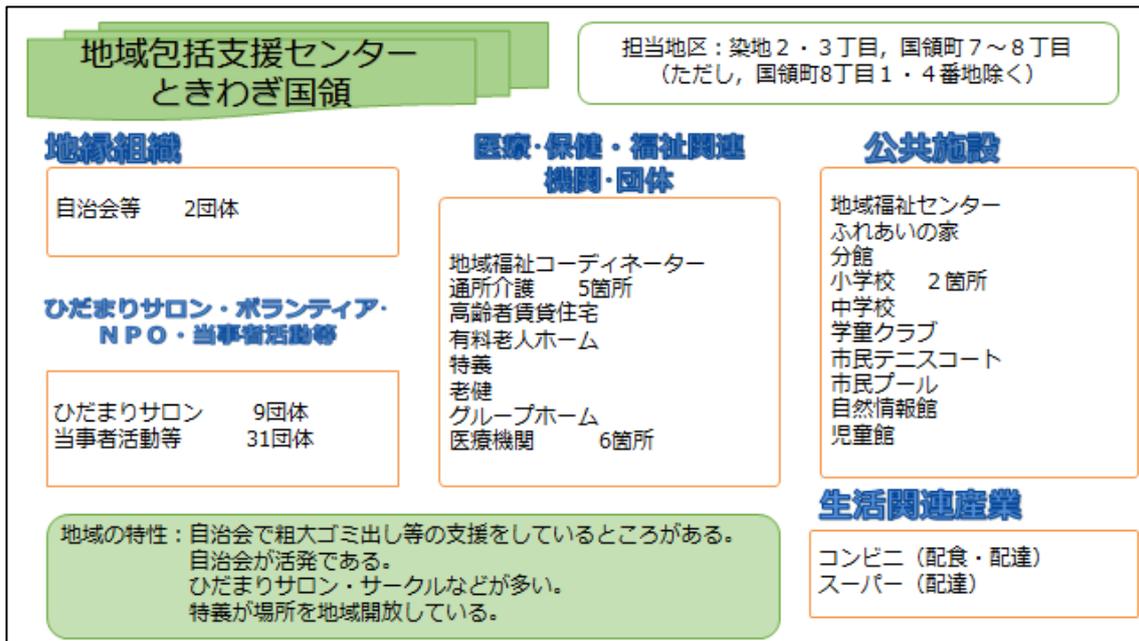
### 公共施設

地域福祉センター  
ふれあいの家 2箇所  
小学校 2箇所  
保育園 2箇所  
学童クラブ 2箇所  
児童館

### 生活関連産業

配食サービス事業所 5箇所  
生協（配達）  
コンビニ（配達）

地域の特性：医療アクセスが不便。  
自治会と特養で合同防災訓練を行っている。  
災害問題に取り組む自治会が多い。



ウ 地域の分析を通して（成果や課題）

地域課題については，各地域包括支援センターだけではなく，センターの担当エリア内においても地域差があることがわかりました。また，地理的要因，人的要因，地域のつながりなどの問題では，市内で共通する課題も多々見られました。今後，全市的な視点で課題整理をしていきます。

地域資源については，引き続き，資源の把握に努めてまいります。また，「生活関連産業」の情報が把握しづらいことがわかりました。今後，調査方法を工夫していきます。

### 3 活動報告【協議体】

#### (1) 開催日程と内容

開催日時	議題
<b>第1回協議体</b> (協議体設立準備会) 平成27年7月22日(水) 14:00~15:30	■調布市生活支援体制整備事業について 「地域の支えあい体制の構築に向けて・・・」 ・経過, 主旨, 方針等について ・事業計画等について
<b>第2回協議体</b> (協議体設立準備会) 平成27年8月18日(火) 15:00~16:30	■講義「生活支援サービスの推進にむけて」 講師/首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 准教授 室田 信一先生(アドバイザー) ■生活支援体制整備事業の方向性の検討, 確認 ■協議体の名称, メンバー(参加団体)の検討と選定
<b>協議体発足記念講演会</b> 平成27年10月23日(金) 10:00~12:00	■第1部 協議体発足記念講演会 「今, なぜ地域の支えあいののか?」 ■第2部 ワークショップ 「自分たちだけでは支えきれなかった方の 事例を通して」
<b>第3回協議体</b> (協議体設立準備会) 平成27年11月27日(金) 10:00~12:00	■調布市生活支援体制整備事業について ■生活支援コーディネーター活動報告 ■「担い手の発掘・育成に向けた取組」 ・各団体からの取組紹介 ・担い手の発掘・育成について ■担い手養成講習会の検討
<b>第4回協議体</b> 平成28年1月22日(金) 9:30~11:40	■総合事業と生活支援体制整備事業 ■担い手の発掘・育成に向けた取組について 生活支援サービス担い手養成講習会について ■生活支援コーディネーター活動報告 ・社会資源調査(中間報告) ・地域課題について(中間報告)
<b>第5回協議体</b> 平成28年2月26日(金) 9:30~11:30	■生活支援体制整備事業と協議体 ■生活支援コーディネーター活動報告 ■平成27年度生活支援体制整備事業 総括 ■平成28年度事業計画の検討 意見・提案集約シート

(2) 協議体メンバー

ア 関係団体 12人

(敬称略)

氏名	所属
小玉 真理子	有限会社ヘルパーねこの手 代表
末吉 喜世子	特定非営利活動法人 たすけあいワーカーズ調布はこべ 代表理事
鈴木 賀代子	ぷくぷく・ポレポレの家 代表
橋本 郁子	民生児童委員協議会
大山 啓太郎	調布市社会福祉事業団 知的障害者地域生活サポート すくらむ 施設長
鯨岡 昌平	調布市シルバー人材センター 事務局長
岡田 圭史	調布市シルバー人材センター 主任
竹下 敬子	調布市シルバー人材センター
高木 直	調布市社会福祉協議会 市民活動支援センター センター長
川原 泉	調布市社会福祉協議会 地域福祉推進課地域福祉係 地域福祉コーディネーター
原口 彰男	調布市地域包括支援センターちょうふの里 センター長
竹内 悦子	調布市地域包括支援センターちょうふの里 見守り担当

イ アドバイザー

氏名	所属
室田 信一	首都大学東京 都市教養学部 人文・社会系 准教授

ウ 事務局

氏名	所属
武安 眞珠	調布ゆうあい福祉公社 事業課担当課長
細谷 光芳	調布ゆうあい福祉公社 事業課住民参加推進係長 生活支援コーディネーター
完山 麻弓	調布ゆうあい福祉公社 事業課住民参加推進係主事 生活支援コーディネーター
神戸 聡	調布市福祉健康部高齢者支援室 高齢福祉担当課長
風間 雄二郎	調布市福祉健康部高齢者支援室 高齢福祉担当課長補佐
川手 智子	調布市福祉健康部高齢者支援室 支援センター係長
小形 健	調布市福祉健康部高齢者支援室 在宅サービス係長
佐近 巴那	調布市福祉健康部高齢者支援室 計画係主事

(3) 協議体発足記念講演会の様子



(4) 協議体の開催を通して（成果や課題）

協議体が、協働の場となるよう努めましたが、事務局運営にもっと工夫が必要なことが分かりました。今後は、更に関係団体からそれぞれの特性を活かしていただけるよう、事務局運営の向上に努めてまいります。

また、担い手の発掘・育成に向けた取組の協議では、生活支援コーディネーターが提案した案から、様々なご意見をいただいて、大幅な改善を行うことができました。今後も、生活支援コーディネーターだけでは考えつかないアイデア等をいただきながら、協議体を持つべき「生活支援コーディネーターの活動の補完」機能を引き出していきます。

#### 4 平成27年度生活支援体制整備事業を通して

生活支援体制整備事業を進めていくうえでマニュアルとなるものは、厚生労働省が平成27年6月5日に示した「介護予防・日常生活支援総合事業のガイドライン」となりますが、“地域の実情に応じた取組を”と随所に記載されており、まさしく、手探りでの事業開始となりました。

このような中、平成27年度においては、まずは「生活支援コーディネーターを知ってもらうこと」、および、「地域の実情を知ること」を主眼におき、地域の様々な団体にお邪魔させていただきました。

「生活支援コーディネーターを知ってもらうこと」に関しては、調布市ではすでに地域福祉コーディネーターが活動していることから、その違いの説明に工夫を凝らしました。

また、「地域の実情を知ること」に関しては、調布市では各団体のそれぞれに、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備に向けて、取り入れたい良い取組や工夫がなされており、調布市での地域活動は一定の土台ができていると認識いたしました。

今後は、平成27年度の活動で窺い知れた“調布市の実情”を、「生活支援コーディネーター」がどう活かして、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備の調整・お手伝いをしていけるか、「協議体」等を通して、地域の皆様と取り組んでいきます。

調布市の地域の皆様が長年かけて耕されてきた土台について、3年かかるか、5年かかるか、10年かかるか、まだ見通しをたてられてはいませんが、生活支援コーディネーターが種まきをすることによって大輪の花を咲かせられるよう、丁寧に地域の醸成に努めてまいります。

## 5 平成28年度生活支援体制整備事業の方向性

### (1) 生活支援コーディネーターの活動

引き続き、第1層（市全域）にて、地域の実情を把握していきます。  
また、必要に応じて、ニーズと取組のマッチングを行い、生活支援サービス等の開発を目指します。

### (2) 「支え合い体制づくり」に向けた普及啓発活動

引き続き、「支え合える地域づくり学習会」を拡充し実施します。  
また、さらに広く市民に普及啓発を図れるよう講演会を実施します。

### (3) 地域課題及び資源調査

調布市では、生涯学習のためのサークルや、ひだまりサロン等の住民活動が活発であることを平成27年度に認識しました。平成28年度は、このような団体の実態把握を中心に活動していきます。

また、高齢者が活躍できる場の調査を行い、リスト化します。

### (4) 協議体の開催

引き続き、第1層（市全域）にて、年5回程度開催します。

主な協議内容は、担い手の発掘・育成に向けた取組をどのようにしていくかについて、メンバーの意見やノウハウを十分に引き出しながら、進めていきます。

また、調布市介護予防・日常生活支援総合事業と生活支援体制整備事業の整理、第1層と第2層生活支援コーディネーターの活動の仕方の整理を、メンバーと確認しながら行っていきます。

登録番号  
(刊行物番号)

2016-77

---

平成27年度 調布市生活支援体制整備事業事業報告書

---

発行日 平成28年4月

発行元 調布市福祉健康部高齢者支援室高齢福祉担当

〒182-8511

東京都調布市小島町2丁目35番地1

電話 042(481)7149

FAX 042(481)4288

E-mail kourei@w2.city.chofu.tokyo.jp

印刷 庁内印刷